

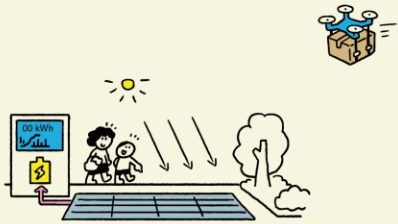
環境先進都市すぎなみを目指して
いっしょに考えよう!

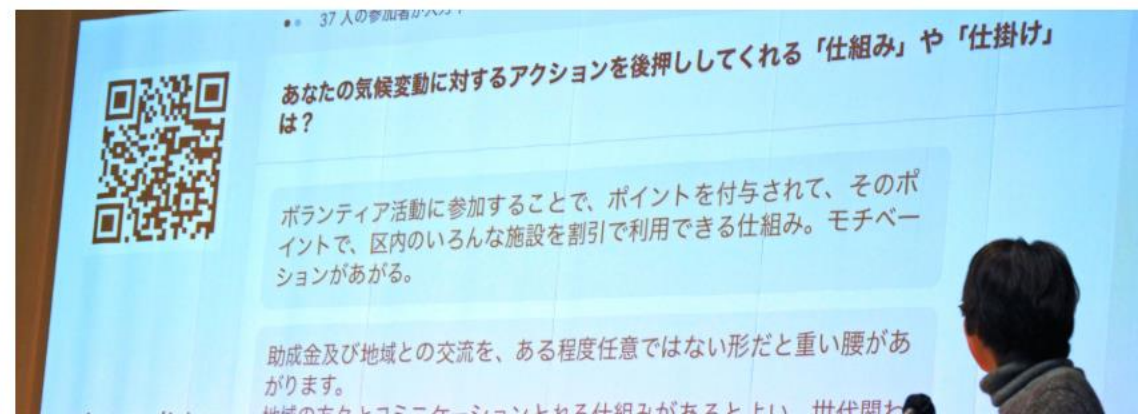
杉並区

気候区民会議 シンポジウム

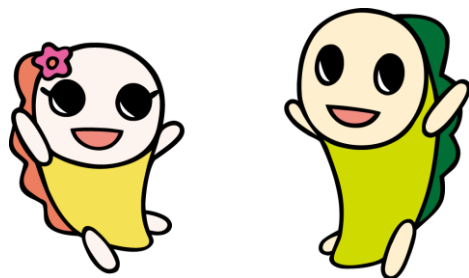
2025 3.20 祝 木 13:30-16:00
(開場13:00)

開催
レポート





当日の プログラム



1. 13:30 ～ 開会挨拶
2. 開催報告 気候区民会議の報告
3. 講演 「ごみ清掃芸人と考える
ごみ問題と地球温暖化」 滝沢秀一氏
4. パネルトーク 先進事例から考える
杉並区の気候変動対策の未来
5. ～ 16:00 総括・閉会挨拶

1. 開会挨拶

岸本区長の開会挨拶では、気候変動は深刻な課題であるとともに、新たな社会システムをつくりあげていく前向きな課題であると述べ、これまでの成果とこれからについて考えていくことに期待を寄せました。

小松環境部長の開催趣旨の説明では、気候区民会議からの意見提案について、全庁横断的に事業化等に向けて検討を進めてきたことや、より多くの人々が気候変動対策に取り組むことの重要性について述べました。



2. 気候区民会議の報告

参加者からの報告

気候区民会議の参加者2名が登壇し、
参加した感想や気づきを共有しました。

参加者からは、「何かを我慢する」のではなく、
「持続してやっていけるか」を念頭に、意見提案の
作成に取り組んだというお話がありました。

一方で、気候区民会議に参加して、省エネ家電の買
い替えや食品ロスへの取組が重要だと思ったものの、
その後の日常の中ではその思いを忘れてしまう経験
から定期的に気づきが得られる機会の重要性につい
てお話がありました。



2. 気候区民会議の報告

意見提案への フィードバック

杉並区温暖化対策担当課長より、気候区民会議の取組についての意見提案内容と、この意見提案に対する「区の主
な対応」をお示ししました。

意見提案に対する「区の対応」は、区のホームページに掲載しています。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s103/19779.html>

提 案
05 区民が参加できるような事業体「杉並電力」により、自分たちで
コツコツと積み上げて発電し、再エネを地産地消するまちにする



提案への
区の対応

提案の杉並電力は、区民・事業者・区がそれぞれが再エネ電力の地産地消を目指すこととして捉え、太陽光発電設備及び蓄電池等への導入助成や、「建築物再生可能エネルギー利用促進区域制度」の導入等による再エネの普及促進に向けた、さらなる取組を検討していきます。



杉並区 環境部 温暖化対策担当

有坂 直子

2. 気候区民会議の報告

専門家からのコメント



名古屋大学大学院
環境学研究科
社会環境学専攻
三上 直之 教授

気候民主主義の研究者である名古屋大学の三上直之先生からは、杉並区気候区民会議の特徴を上げたうえで、**5つのポイント**を紹介しました。

また、杉並区としても施策の立案実施や成果の発信に一層努めてほしいなどの期待を述べました。

ポイント①

毎回3時間、全6回の会議で、限られた時間で議論を深めていくにあたり、ファシリテーターが大きな役割を果たした。また、国内外で実施された過去の気候市民会議から学び周到に設計されたものであった。

ポイント②

気候区民会議の実施に先立ち、杉並区内に「気候危機対策本部」が設置され、また、意見提案について、「施策への反映を一つ一つ検討する」とするなど、区側での体制を整えた上で実施された。

ポイント③

その結果、4つのテーマと33の取組の意見提案は、相当に具体性が高いものになった。

ポイント④

課題として、事業者を含む多様なステークホルダーからの意見や情報に直接触れて議論する機会が必ずしも十分ではなかった。

ポイント⑤

杉並区の気候区民会議は、日本における気候市民会議の代表例の一つであり、気候区民会議の参加者のみならず、今後は気候区民会議に参加しなかった区民も含めて、積極的に気候変動対策を進めてほしい。

東京立正高校の 取組紹介

東京立正高校（在：杉並区高円寺）
イノベーションコースの生徒が、総合的な探究の時間のプロジェクトとして
取り組み、開発した桃甘酒「桃源郷」
の紹介がありました。

「桃源郷」は、福島の桃農家や麴屋、
企業とコラボレーションし、流通に乗
らない桃をアップサイクルして、社会
課題の解決も実現した商品です。

循環型社会に向けた取組の一例として
紹介し、来場者向けに販売が行われま
した。



TOKYO RISSHO
東京立正高校



TOGENKYO
桃甘酒 「桃源郷」



3. 講演

「ごみ清掃芸人と考える ごみ問題と地球温暖化」

マシンガンズ 滝沢 秀一 氏

滝沢氏は、生ごみは水分を絞って捨てれば臭い対策にもなり、焼却時の燃料を減らすこともできること、コンポストを利用するとさらに減量化もできることなど、個人でもできる工夫について紹介されました。

また、ランドセルやぬいぐるみは寄付できること、使い捨てカイロや歯ブラシ、上履き、紙容器などは回収してリサイクルできることを紹介し、「杉並区でも、学校や図書館などで集めるシステムをつくってはどうか」との提案をしました。



4. パネルトーク

先進事例から考える杉並区の気候変動対策の未来



千葉大学大学院の竹内智子先生は、杉並区には公園や河川沿いの緑地、農地や屋敷林が残っており、みどりが持つ多面的な価値と豊かなみどりを皆で守り育んでいくことの重要性を説明しました。

ヤマハ発動機（株）の森田浩之氏は、低速小型EVのグリーンスローモビリティ（略称：グリスロ）が、環境にやさしい、目的地への移動手段としての役割のみならず、地域の課題解決に貢献している導入事例を紹介しました。



横浜市の関口昌幸氏は、資源や製品の循環だけでなく、循環を通じた「ひと」のエンパワーメントにより、横浜市が抱える環境・社会・経済課題を解決し、市民のウェルビーイングの実現を目指す、「横浜版地域循環型経済」について紹介しました。

4. パネルトーク

先進事例から考える 杉並区の気候変動対策の未来

パネルディスカッションでは、気候アクションを進める仕掛けや仕組みについて、ポイントなどのインセンティブを導入して、楽しく気候アクションを進めていくこと、対策の効果がわかるようにデータの「見える化」を進める必要性について議論されました。

また、取組を持続的なものにするために地域の中で関係者を巻き込んでいく仕組みをつくることの重要性が示されました。



横浜市 政策経営局
共創推進課

関口 昌幸氏



ヤマハ発動機株式会社
技術・研究本部
共創・新ビジネス開発部

森田 浩之氏



千葉大学大学院
園芸学研究院

竹内 智子氏



[司会]
芸人・ごみ清掃員
マシンガンズ
滝沢 秀一氏

5. 総括・閉会挨拶

会場からの意見を踏まえ、岸本区長が
今後の展望や決意を述べました。

複合的な課題を同時に解決し、地域や人を元気にしながら脱炭素化社会を目指していくことが、地方自治体の大きなミッションであり、今後も「気候危機対策本部」において、意見提案の実現に向けて施策を進めていくとともに、区民との対話の中で、人と人とのつながりを大切にしながら、脱炭素対策を進めていきたい、と決意を述べました。

